

もりやま 歴史浪漫紀行

— 守山区と小牧・長久手の戦い —

延暦年間(786~806)、伝教大師最澄の創建と伝えられ、熱田神宮の奥の院とも称される名刹。

庄内川を望む高台にあり、濃尾平野を一望できる天然の要害で、小牧・長久手の戦いに際し、羽柴秀吉(のちの豊臣秀吉)が一日限りの本陣としました。

また、名古屋城築城に際し、徳川家康が名古屋城の鎮護として定めた尾張四観音の一つで、毎年、節分会は多くの人で賑わいます。



「尾張名所図会 龍泉寺(着色)」(名古屋都市センター所蔵)

秀吉は退却時に寺堂に火を放って消失させましたが、慶長3年(1598)、密蔵院(春日井市)二十九世 秀純が再興しました。

宝物館(龍泉寺城)の裏側にある尾根先端部に、秀吉が築いたと伝えられる南北に伸びた堀の一部(長さ約30m、幅約5m)が残ります。「尾張名所図会 龍泉寺」にも「秀吉公一夜堀址」「太閤岩」が描かれています。

国指定重要文化財の仁王門と木造地藏菩薩立像のほか、円空作の馬頭観音、千体仏五百数十体等を所蔵。



境内には昭和39年(1964)建設の宝物館「龍泉寺城」があり、寺宝が多数展示されています。

※宝物館は日・祝日のみ開館



かつて近隣の村から龍泉寺へ豊作祈願の「おまん(馬の塔)」を奉納する神事が行われていました。

吉根村(現在の吉根地区)の馬に飾る標具(ダシ)は、金銀の千成瓢箪。小牧・長久手の戦いの折、秀吉が吉根観音寺に立ち寄り、馬印の千成瓢箪を置いていったという言い伝えに由来するものです。



龍泉寺